

(様式1) 平成 24 年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870900145		
法人名	株式会社 アクティブライフ		
事業所名	アクティブライフ夙川		
所在地	兵庫県西宮市樋之池町16-4		
自己評価作成日	平成24年6月15日	評価結果市町村受理日	平成24年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成24年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して13年目になり、ご利用者の高齢化も進んでいます。遠方への外出は困難になっていますが、体調の状態を見ながら近隣の自然や動植物に触れあう場所への外出や、文化的鑑賞の機会を設けています。施設内の行事にお誘いし参加していただくことで、地域の方の顔なじみとして密な関係を築いていけるように心がけています。
ご利用者やご家族の想いを尊重し、お気持ちに寄り添ったケアができるよう、これからも努力し続けたいと思います。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アクティブライフ夙川」としてグループホームの他、デイサービス・訪問介護・居宅介護支援等の介護サービスを複合的に提供している。「地域社会と共に」を理念に掲げ、開設当初より地域に開かれたホームとして、自治会活動への参加やボランティアの受け入れ、地域の認知症学習会の講師を務める等地域とのつながりを大切にしている。利用者に寄り添い、利用者の主体性を尊重した支援の実践の為に、職員は充実した研修体制のもとで「介護」について学び、ミーティング・申し送り等でも意見を出し合い、常に意識したケアが提供できるよう努めている。利用者の高齢化・重度化がすすむ中、一人ひとりの利用者の心身の状態や意向に配慮して、利用者参加型アクティビティの取り組み等に職員全体で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域社会と共に」を方針に掲げ、ご入居者が住み慣れた街や地域とかかわりを持って生活していくことを大切にできるように心がけています。</p>	<p>「ご入居者が主人公」「生きがいのある生活」「尊厳を保つ」「地域社会と共に」という法人理念を玄関や各ユニット毎に見やすいよう掲示するとともに、入社時オリエンテーションやグループホームのミーティング、朝礼時等で日々のケアを理念に立ち戻って振りかえり、ケアに反映できるよう努めている。利用者一人ひとりの希望、意向に沿った個別ケアの実践等理念の具現化に向け取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入しており回覧板が回ってきます。地域の情報誌も届けられている。施設イベントは地域へ案内をしており、参加もある。地域のイベントへ利用者が参加することもある。</p>	<p>地域の自治会に加入し、回覧板の活用や地域情報誌の配布などで近隣行事等を情報収集し、地域との関わりの継続に努めている。近隣の子供たちが母親とともに来訪したり、グループホーム主催の夏祭りや餅つき大会への住民の参加、また、地域の畑へ野菜等の収穫に出かけたり地域の演奏会や夏祭りへの参加等人々がお互いに支え合う関係が築かれている。地域ボランティアセンターで開かれる認知症学習会で講師を務め、事業所での音楽療法の体験会や住まいについてのセミナーの開催等地域で必要とされる活動や役割を担っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>GHやホームヘルプのスタッフが北夙川ボランティアセンターで認知症の勉強会を行っており、毎回関心を持って参加していただいています。</p>		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月ごとに運営推進会議を行い、GHの状況などを報告し、意見交換の場とさせてもらっています。季節の行事にも参加していただき、ご利用者と一緒に過ごしてもらっています。</p>	<p>会議は2カ月に1回開催し、家族代表・地域包括支援センター職員・民生委員・知見を有する者等が参加している。利用者や職員の状況・行事の報告・第三者評価結果・家族アンケート集計結果等について報告し意見をもらっている。目標達成計画の進捗についても話し合っている。会議の議題については他施設からの情報も参考にしながら、有意義な会議になるよう取り組んでいる。会議の内容については家族会で報告している。また、運営推進会議で提案された地域住民の消防訓練への参加呼びかけ等、そこでの意見・提案等をサービスの向上に活かしている。</p>	<p>より多くの提案・意見等をサービスに活かし、外部者に意見等を表す機会づくりとするために、利用者にも状況に応じて参加を呼びかけてみてはどうか。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>西宮市のGH連絡会への参加。市や他事業所と相談・連絡を取り合っている。今年度西宮市CM協会監事を担当。</p>	<p>運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員を通じて、事業所の取り組み等の情報提供を行うとともに、西宮市グループホーム連絡会に市の担当者も参加しており情報共有の機会を持っている。社会福祉協議会が主催する認知症家族の会「さくら会」でも交流している。また、所長等が転倒予防対策等の事業所の課題や相談で市担当窓口を訪問したり、メールで連絡を密にしている。市担当者も課題解決や相談に協力しており協力関係が築かれている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>基本的に身体拘束はしない方針で、やむをえない場合はスタッフやご家族に理由を明確にして説明し、同意書を交付。状況を確認しながら随時検討している。</p>	<p>法人内研修等定期的に研修を行い、拘束がもたらす弊害や禁止の対象となる身体的な具体的な行為を学ぶと共に心理的な拘束についても学んでいる。家族にも身体拘束により予測されるリスクを説明し、センサーマットの使用や見守りの徹底等により身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所内のエレベーターはテンキー操作による利用となっているが、利用者によって自分で操作できる場合は、安全面に配慮しながら支援している。職員は施錠による弊害について理解しており、外出の希望や気配を察知したときは、利用者の外に出たい思いを大切に、その都度付き添い対応している。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やミーティングで学習する機会を持ち、態度や言葉遣いのマナーに関しては毎週月曜の朝礼でマナー5指標語を唱和して意識付けをしている。	法人内研修等定期的に研修を行い高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、身体的以外の虐待についても学んでいる。日常のケアで意図的でなくても不適切だと思われる対応や言葉掛けがあれば、職員間でその都度注意し合うよう取り組んでいる。リーダーや主任による早期の職員に対する声かけや、職員の希望を採り入れたシフト調整等、職員のストレスや疲労が利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。家族との会話や入浴時に利用者の身体状況に留意し、事業所や自宅での虐待が見逃されることのないよう注意を払い防止に努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な手続きは総務で担当するため、職員がそれぞれの制度について理解を深められていない。	現在成年後見人制度を活用している人もあり、法人の総務担当者と協力しながら後見人への情報提供や連絡・相談等の支援を行っている。権利擁護に関する法人内研修を実施し、パンフレット等の資料も準備しているが、制度の理解には職員間で温度差がある。	新たに成年後見制度の活用が必要と思われる人や、一層の支援が必要になった時に備え、すべての職員が理解を深めておくことが望ましい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に重要事項説明書の読み合わせを行い、サービス内容を文章にして分かりやすい説明ができるよう努めています。	契約前の事業所見学・自宅訪問時に利用者・家族の質問・疑問等に丁寧に答えている。契約時には、所長と共に総務の担当者も同席し、重要事項説明書を読み合わせ、理解しやすい言葉に直してしっかり説明している。退居条件については質問も多く、特に詳しく説明している。契約の改正や変更が生じた場合は、運営推進会議等でも説明し、家族には根拠を明確に説明した文書を送り同意を得ている。また、タイミングが合えば家族会でも説明している。入院や入所等での解約時には、退居先の施設等の情報提供を家族・施設等へも行い、十分な説明と納得を経ての円滑な退居のための支援を行っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望は、日常のコミュニケーションの中からも汲み取れるように努め、記録に残すことも心がけています。ご家族へは、毎月のレターや電話、ご来訪の際にお伝えし、ご家族からお話を伺うように努めています。また、家族会も開催して意見交換の場とさせていただいています。	毎月、利用者の状況を家族にレターで伝えると共に、家族訪問時には声かけを行い、要望や意見等を積極的に把握するよう努めている。また、年に2回程度開催する家族会や運営推進会議でも率直な意見が聴けるよう取り組んでいる。法人として家族アンケートを実施し積極的な意見収集に努め、日々の暮らしの中でも利用者のさりげない言葉や表情・しぐさから意見・要望等を把握するよう努めている。顔写真付きの職員紹介を詰所近くに掲示する等、出された提案を運営に反映させている。また、第三者評価時の家族アンケートも貴重な意見としている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1度のスタッフとの面談の場や日々の申し送り、毎月のミーティングの中で職員と話し合う機会がある。また、毎年「改善提案・報告」について書式で本社へ提出する機会があります。	職員が意見を出しやすいよう職場環境づくりに努め、毎月のミーティングや朝礼・日々の申し送り等で意見交換しやすいよう配慮している。法人本部へ「改善提案・報告」を提出する機会や、所長と職員との個別面談の機会があり、運営に関する職員の意見等を聞き、それぞれの職員が目標設定し努力していけるような支援体制が整っている。法人内や事業所内の職員異動については、利用者との馴染みの関係や職員の意向も配慮し、利用者へのダメージを極力少なくするよう取り組んでいる。利用者同士の関係を配慮した食事時の座席の工夫等出された提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が半年に1度のスタッフ面談を行い、ふり返りや具体的な目標を設定して向上心を持って仕事に取り組めるように働きかけています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社の研修センターでの研修を入社後定期的に受講できるように計画している。研修後もミーティングなどで振り返りを行っている。また、外部の研修についての情報も発信し、スタッフが研修を受ける機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や認知症家族の会の研修に参加して交流の機会にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけご自宅へ伺い、ご本人やご家族からお話を伺っている。また、事業所から情報提供いただくなど、本人を取り巻く環境を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅を訪問するほかにも、お電話や見学に来ていただいてお話を伺う機会を設け、ご要望やご質問を伺って納得していただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望にGHではどのようにサポートできるのかを検討し、インフォーマルなサービスの情報も提供するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をお手伝いするという観点から、ご本人が生活の中でしてみたい事、継続したいこと、困っている事などを日々のコミュニケーションを大切にしながら実践していけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化などがあったときにはご家族に連絡相談させていただき、共にサポートできるように心がけています。また、ご一緒に外出や行事に参加していただく機会を持てるよう努めています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも、いつでもご来訪していただけるようにしており、毎日のようにどなたかのご来訪がある。 また、日常的に近隣の公園やスーパーに出かけ、顔なじみの関係を続けられるようにしている。	入居時に利用者・家族、ケアマネジャー等からの聞き取り、また日常の関わりの中からこれまでの生活歴等利用者と地域との関係を把握し、「入居時面接シート」等で情報を共有している。親しかった友人や近隣の知人の来訪時には湯茶の接待等で気軽に訪問できるような雰囲気づくりを心がけている。また、母校の訪問や母校の生徒にボランティアとして来訪を依頼する等利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係が無理なく続けられるように、お食事の座席やアクティビティの座席にも留意し、随時検討しています。コミュニケーションが難しいご利用者にも集団施勝つの雰囲気を感じてもらえるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された方には、それまでの生活のアルバムをお送りしています。また、ご相談にはいつでも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の職員やご利用者同士とのコミュニケーションの中からもご意向を汲み取るようにし、記録に残すようにしている。また、会話が困難な方は、表情や態度、行動などから汲み取るようにしており、ご家族にお話を伺うこともあります。	入居時に利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、意思の疎通が難しい利用者も日々の暮らしの中で利用者の言葉・表情・行動から利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取るよう取り組んでいる。汲み取った情報は、その都度パソコンにて支援経過に記録し、また、申し送りやミーティング等でも共有し、時々々の状況に応じた利用者本位の支援に繋がられるよう取り組んでいる。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴は、ご本人やご家族、主治医などからできるだけ詳しくうかがい、記録に残して職員で情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のご様子、体調の変化などはその日のうちにパソコンで入力して記録に残し、申し送りを行っている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を職員・かかりつけ医等と相談しながら介護計画を作成し、確認してもらい。期間内に変更がある場合にもその都度ご本人・ご家族・かかりつけ医と相談・確認しながらその方の現状に即した介護計画を作成するようにしている。	本人・家族の意向・希望をしっかりと把握し、かかりつけ医、訪問マッサージ師、デイサービス担当者、厨房スタッフ等とも相談しながら職員間で検討し、主任やリーダーが主体となって基本的には6ヶ月ごとに介護計画を作成している。毎月のミーティングで全ての利用者についてケアの実施状況や達成状況を振り返っている。利用者の状況や家族の要望等に変化があれば期間に関係なく、その都度現状に即したものに更新し迅速に対応している。介護計画策定や見直し時は、本人・家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子や勤務のスタッフが必ず当日中にパソコンに入力し、どのスタッフも必ず勤務前には記録の確認をしてからその日の勤務にあたるようにしています。また、口頭での申し送りも行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽療法やフィットネス専門のスタッフが居り、ご利用者の健康や精神の安定につながっている。また、状況に応じた部署から協力を得て安全に外出ができる仕組みがあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年末の餅つき、毎月のおやつ作り、毎週の囲碁、地域のボランティアの方とは、なじみの関係を作り楽しんでいただいている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご希望があれば入居前からのかかりつけ医にそのまま継続して見ていただけるよう、お手伝いしている。嘱託医には、ご利用者全員の健康管理のために、月1回の巡回をしていただいている。また、受診時は職員が看護師が付き添う。</p>	<p>定期的な往診を行う医師をかかりつけ医としている利用者や、今までのかかりつけ医で受診している利用者もあり、本人・家族の希望を尊重した受診支援を行っている。今までのかかりつけ医による往診もあるが、往診が行われないかかりつけ医の通院介助は基本的には家族が行うこととして、入居時にしっかり話し合っているが、家族の状況等により事業所が臨機応変に対応している。受診結果はお互いに報告しあい情報を共有している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>受診は看護師のほかに職員でも対応し、受診時の指示などを看護師や医師に報告している。</p>	/	/
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>お見舞いにかがった際には担当看護師や医師、病院関係者からも状況を伺い、早期退院できるように心がけている。退院後の注意事項についてうかがったり、退院後も連携が取れるようにしている。</p>	<p>利用者の入院時にはかかりつけ医等と連携を取りながら、利用者のホームでの様子や心身の状態について入院先へ「紹介状」「介護サマリー」等で情報を提供している。入院中は利用者の状況によっては洗濯物の交換もあり頻繁に見舞いに行き、病院関係者から経過等について説明を受け、早期退院に向け協力し合えるよう話し合っている。退院時にはカンファレンスにも出席し、「看護サマリー」等の提供を受けて、入浴時の注意点等退院後の事業所での支援に活かしている。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の時に重度化への対応についてGHでできることをご家族に説明している。ご利用者に変化があった場合は、ターミナルケアについても早めの時期からご家族と話し合いの場をするよう努めている。変化が見られたときにはご家族、かかりつけ医と連携を取ってGHでできることの確認をしている。	昨年、重度化した場合や終末期のあり方について事業所が対応し得る支援方法を「重度化した場合に於ける対応に係る指針」として作成した。作成後の入居者は契約時に、以前からの入居者は作成後すぐに、指針を十分に説明し家族の意向を確認しながら同意を得ている。利用者の重度化が進んできた時は、支援方法や家族の意向等をかかりつけ医等を交えて繰り返し話し合い方針を共有している。看取りにあたっては、かかりつけ医の方針の下、歯科医師・訪問看護師等地域の関係者の協力を得ながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフミーティングを利用して、急変時や事故の発生時の対応を昼夜に分けて手順の確認をしている。AED研修も行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消化・通報・誘導訓練を消防署と連携して行っている。また、ミーティングを利用して手順の確認をするようにしている。	消防署の協力も得て、昼間や夜間の時間帯を想定した消火・避難誘導・通報等の訓練をグループホームが主体となり年2回実施している。災害時に落ち着いて確実に利用者の避難誘導ができるよう、職員はミーティングで定期的に役割分担・対応手順等について再確認している。運営推進会議を通じて、周辺地域に協力を呼びかけるとともに、地域の防災担当者とも連絡を密にし、役割や利用者の見守り等を依頼している。災害時に備えて食料品や飲料水、懐中電灯等の備蓄がある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の一つである「尊厳を保つ」ことを意識し、マナー研修や認知症の勉強会で高齢者に対する言葉かけや接し方などについて意識づけしている。	「ご入居者が主人公」「尊厳を保つ」を理念に掲げ、利用者の人格を尊重しプライバシーを損ねる事のないような対応や言葉掛けを心掛けています。マナー研修や介護技術研修で繰り返し学ぶ事で、職員一人ひとりの意識付けができています。例えばトイレ誘導時はさりげない声かけを行う、おむつは布袋に入れて運ぶ、広報誌「季刊アクティブ」に掲載する写真は個人が特定できないよう工夫するなど、細やかに配慮している。個人記録類は詰所の施錠できる場所に保管し、パソコンはパスワードによりセキュリティ管理を徹底している。	事業所内に掲示している行事等の写真は、個人が特定できるので使用にあたっては、念の為家族の同意を得ておいてはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の想いやお気持ちを引き出せるような声掛けを意識している。また、スタッフとのやり取りだけでなく、ご利用者同士の会話の中からも思いを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは特に決まっておらず、好きなことをして過ごしていただくのが基本です。食事やアクティビティの時間が日課となるように、だいたいの時間が決まっているものもあり、参加・不参加はご自分で決めていただきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な方にも、その日着る服をなるべく一緒に選んでもらうようにしている。ご自分で選ぶのが難しい方には、ご家族から情報を得たり、選んでいただく事もあります。お化粧の習慣があった方には、できるだけ続けていただくようにしています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は厨房で行っている。ご飯とお味噌汁の配膳は各フロアでしていますが、お手伝いしていただける方が少なくなってきました。行事やお誕生日には、旬を取り入れたり、ご本人の好きなものをメニューに組み込んで提供しています。	施設内厨房で調理した食事が提供されている。四季折々の行事に合わせて季節感を出したメニューや、利用者の体調に配慮しきざみ食やミキサー食にも対応している。適宜外食や出前・おやつ作り等変化をもたせ、食への楽しみに配慮している。利用者の食事づくりへの参加は、手伝える人が少なくなってきたはあるが、一人ひとりの希望や関心等を見極め、無理のない範囲で力や好みを活かすよう努めている。職員1名が検食という形ではあるが利用者の代弁者として、利用者と共に同じ食事を摂り、他の職員は食事の見守りと適切な介助を行なっている。利用者の食事への要望については、厨房との「食事ミーティング」で話し合い、希望・意向等を反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指示も含め、それぞれの方の生活や嚥下咀嚼に応じてお食事の形態を変えて提供しています。また体調の急変にも対応してメニュー変更も行っています。水分もお好きなものやゼリー状のものなど、摂りやすいものを用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ毎食後に口腔ケアをしていただけるようお勧めしています。応じて頂きたい方には、して頂きやすい時にお誘いしています。ケア用品もご本人の状況に合わせてご用意しています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方の排泄パターンを排泄チェック表に入力することで間隔の把握に努め、トイレにお誘いして自然な排泄ができるようにしている。また、状況により昼と夜で使用する下着を変えている場合もある。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な人は排泄チェック表に記録し、トイレでの排泄を大切に支援を行っている。夜間は紙パンツを使用するが、昼間は布パンツの使用を試みる等、羞恥心の軽減やおむつ類の使用を減らすよう取り組んでいる。また、排泄の自立支援に向け、利用者によっては介護計画にも反映させている。前誘導時等はプライバシーに配慮し、さりげない誘導を心がけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動をしていただけるよう、体操や散歩の時間もとるようにしている。また、乳酸菌飲料やヨーグルトを摂ることで調整している方も居る。緩下剤の服用も、体調等で適宜服用量を変更している。			
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には隔日の夕食後～就寝に入浴していただいているが、なるべく本人の希望を取り入れるようにしている。習慣や体調により日中に入浴されるかたも居る。	入浴は基本的には隔日の夕食後～就寝前としているが、本人の希望やタイミングに合わせて、入浴が楽しめるよう支援している。利用者の心身の状態に応じてリフト浴にも対応し、不安の軽減や安全面に配慮した支援を行っている。要望があれば同性介助による対応や、負担感等で入浴を嫌がる人には時間をあけて声かけを行う等、一人ひとりの入浴忌避の原因に配慮した入浴支援を行っている。また、季節感を採り入れ、ゆず湯・菖蒲湯等の工夫もあり、利用者が楽しく入浴できるよう取り組んでいる。		
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝など、好きな時間に休んでいただくようにしている。			
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自に『お薬手帳』を作成しており、服用方法・効能・副作用について分かるようになっている。降圧剤や緩下剤場なども、医師と相談して調整している。新しいお薬が出た場合には、様子観察・申し送りを行うようにしている。			
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽がお好きな方が多く、生活の中でほぼ毎日取り入れるようにしている。また、個別でも囲碁やちぎり絵などを続けていただけるようサポートしている。			

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出することが難しい方が増えてきていますが、近隣のスーパーや公園などにはできるだけ出かけていただけるようにしています。ご家族とのお出かけもできるだけ続けていただけるようにサポートしています。	利用者の高齢化や重度化に伴い外出支援も難しくなりつつある為、利用者一人一人の状況や希望にそって個別に支援していくよう努めている。毎日の気軽な散歩を希望する人には、近くの公園やスーパーへ、時にはホームの庭で日光浴やお茶を楽しむ等、出来る限り戸外に出かける機会を増やすよう取り組んでいる。車での外出にも積極的に取り組んでおり、法人でのドライバー研修に職員が参加し、外出の機会を増やせる体制を整備している。車いすの利用者も利用者の状況に応じた移動に配慮し、外出機会が均等になるよう努めている。花鳥園等普段は出かけられないような場所でも家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の保管や管理をしている方もおられ、外出の際にお好きなものを購入されることもある。ご自身で管理しておられない方も、希望のものがお買い物できるように、立替をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には、フロアの電話を使用させていただくことが多いですが、ご希望の方には居室にお電話を設置しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花や時期にあわせた飾り・置物を配置して、落ち着いた空間になるように配慮している。ご利用者の手作りのものを飾ることもある。音楽やTVの音が生活の邪魔にならないように配慮しています。	七夕まつりの笹に短冊を飾る等、季節の行事に合わせ四季の変化を感じとれるよう工夫している。ソファ・テーブル・椅子の配置は、車椅子でもスムーズに動けるよう暮らしの動線を考えると共に、利用者が思い思いに過ごせる居場所づくりにも配慮している。日めくりのカレンダーも利用者にも季節感や生活感を与えている。キーボードを奏でる利用者もいて、他の利用者とともに演奏を楽しむ等、居心地のよい共用空間づくりが行われている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂の席は、食事以外のときは特に固定せず、好きな席に座っていただけるようにしている。ホールの椅子も、その時々で並べ替えています。</p>	/	
54	(24)		<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>椅子や枕など、ご自宅で使い慣れていた家具を持ってきたり、アルバムを持ってきておられる方も居ます。</p>	<p>各居室のドアには木製の表札を掲げ、家庭的な雰囲気を感じさせ一人ひとりの利用者の居室空間も大切にしている。利用者・家族と相談しながら、一人ひとりの思いが反映されるよう支援しており、使い慣れた家具・懐かしい家族写真・季節を感じさせる利用者の作品・趣味の歌集やCD等が置かれ、一人ひとりの個性を大切にした居心地よい居室となっている。</p>	
55			<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な箇所に手すりを取り付け、安全に歩行していただけるよう配慮している。車椅子自走の方もすれ違いなどがスムーズに行えるように、家具の配置にも気をつけています。</p>	/	